

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年11月14日

【四半期会計期間】 第70期第2四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

【会社名】 中外炉工業株式会社

【英訳名】 Chugai Ro Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 佐藤嘉彦

【本店の所在の場所】 大阪市中央区平野町3丁目6番1号  
(あいおいニッセイ同和損保御堂筋ビル)

【電話番号】 大阪06(6221)1251

【事務連絡者氏名】 常務取締役業務本部長 西本雄二

【最寄りの連絡場所】 東京都港区東新橋2丁目12番7号(住友東新橋ビル2号館)

【電話番号】 東京03(3578)4741

【事務連絡者氏名】 取締役東京支社長 木曾田欣弥

【縦覧に供する場所】 中外炉工業株式会社東京支社  
(東京都港区東新橋2丁目12番7号(住友東新橋ビル2号館))  
  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
  
株式会社大阪証券取引所  
(大阪府中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	会計期間	第69期	第70期	第69期
		第2四半期 連結累計期間	第2四半期 連結累計期間	第69期
		自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高	(百万円)	17,881	15,795	38,276
経常利益	(百万円)	1,769	644	4,002
四半期(当期)純利益	(百万円)	1,104	403	2,314
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	274	212	1,894
純資産額	(百万円)	21,713	21,470	22,631
総資産額	(百万円)	43,102	40,348	44,545
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	12.58	4.77	26.62
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	50.2	53.1	50.7
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	5,667	1,811	11,341
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	106	171	303
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	858	760	1,631
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	12,945	14,905	17,643

回次	会計期間	第69期	第70期
		第2四半期 連結会計期間	第2四半期 連結会計期間
		自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	8.82	3.42

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第69期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災による部品サプライチェーンの寸断により生産・輸出が大きく落ち込みましたが、その後、復旧が急速に進み、後半においては震災後の停滞を脱して緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら長引く円高、株価の低迷は企業業績の重荷となり今後の展開は予断を許さない厳しい状況となっております。

また、米国では財政支出の抑制により景気拡大ペースが鈍化し、欧州はギリシャの財政問題に端を発する市場の混乱により景気減速の懸念が強まるなど、世界経済の先行きに対する不透明感が強まりました。

当社グループの関連する市場におきましては、自動車業界は国内生産台数が8月には震災後初めて前年同期比増加に転じましたが、国内投資には慎重で維持・補修関連が大部分でした。鉄鋼業界では自動車向け鋼材の増産はあるものの、国内では本格的な設備投資には至りませんでした。また電機業界は7月の地上デジタル放送への全面移行に伴うテレビ需要の反動減で、生産は大幅に減少しました。

このような厳しい経営環境のもと、当社グループは国内顧客が生産拠点の移転を加速している中国・東南アジアを中心に営業強化に取組むとともに、市場に適應するコストの追求に全社をあげて取組みました。

その結果、ベトナムで鋼板連続塗装ラインを、台湾では電磁鋼板連続塗装ラインやスマートフォン（高性能携帯電話）に代表されるタッチパネル関連精密塗工装置などの成約を得て、受注高は18,971百万円（前年同期比85.6%）となりました。

売上面につきましては、台湾向けタッチパネル関連精密塗工装置の納入や、中国向けステンレス鋼板製造設備、国内鉄鋼向け加熱炉新設工事が順調に進捗した結果、売上高は15,795百万円（前年同期比88.3%）となりました。

利益面につきましては、コストダウン・経費削減などに取組みましたが、減収及び海外市場での厳しい価格競争や円高の影響もあり、営業利益660百万円（前年同期比38.5%）、経常利益644百万円（前年同期比36.4%）、四半期純利益403百万円（前年同期比36.5%）と大幅な減益を余儀なくされました。

一方、資本効率の向上と株主の皆様への利益還元の一環として、前期に引続き、100万株の自己株式を取得いたしました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりです。

(エネルギー分野)

受注面では、国内でのカーボン熱処理設備や電子部品焼成炉をはじめ、ベトナム向け鋼板連続塗装ラインや台湾向け電磁鋼板連続塗装ラインなどの成約を得て、受注高は12,852百万円（前年同期比85.5%）となりました。

売上面では、中国向けステンレス鋼板製造設備や台湾向け鉄鋼加熱炉、韓国向け連続亜鉛めっきライン改造などを計上した結果、売上高は9,452百万円（前年同期比82.3%）となりました。

この結果、営業利益は230百万円（前年同期比17.0%）に留まりました。

(情報通信分野)

受注面では、需要の旺盛なスマートフォン（高性能携帯電話）をはじめとしたタッチパネル関連精密塗工装置やフィルム用真空成膜装置、ガラス基板熱処理設備などの成約を得て、受注高は4,258百万円（前年同期比83.0%）となりました。

売上面では、前期までに受注したタッチパネル関連精密塗工装置やフレキシブルディスプレイ関連熱処理設備、有機EL関連熱処理設備などの納入により、売上高は4,535百万円（前年同期比84.9%）となりました。

この結果、営業利益は230百万円（前年同期比39.8%）に留まりました。

(環境保全分野)

受注面では国内印刷会社向けや化学メーカーの海外工場向けに蓄熱式排ガス処理装置などの成約を得て、受注高は1,882百万円（前年同期比126.0%）となりました。

売上面では国内鉄鋼メーカー向け活性炭製造設備用キルンや自動車メーカーの海外工場向けに蓄熱式排ガス処理装置、全熱交換省エネシステムなどを納入した結果、前年が大きく落ち込んだ反動もあり売上高は1,371百万円（前年同期比150.2%）と大幅な増加となりました。

この結果、営業利益は50百万円（前年同期は228百万円の営業損失）となりました。

(その他)

受注面では、国内顧客の海外での設備投資が積極的で、中国向け機械部品熱処理設備や鉄鋼向けリジェネレーティブバーナなどの成約を得て、受注高は1,725百万円（前年同期比101.2%）となりました。

売上面では中国向け機械部品熱処理設備の納入が引き続き順調で、売上高は1,447百万円（前年同期比157.1%）と大きく増加いたしました。

この結果、営業利益は77百万円（前年同期は13百万円の営業損失）となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、セグメント区分を変更しており、当四半期連結累計期間の比較・分析は、変更の影響を含めております。また、セグメント別の各金額は、セグメント間取引等相殺消去前の金額によっております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（資金）は、14,905百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

売上債権の減少976百万円や税金等調整前四半期純利益の計上644百万円等の資金の増加はありましたが、仕入債務の減少1,572百万円等により、1,811百万円の資金の減少となりました。（前第2四半期連結累計期間は5,667百万円の資金の増加）

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

有形固定資産の取得による支出183百万円等により、171百万円の資金の減少となりました。（前第2四半期連結累計期間は106百万円の資金の減少）

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

配当金の支払679百万円等により、760百万円の資金の減少となりました。（前第2四半期連結累計期間は858百万円の資金の減少）

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりです。

#### (1) 基本方針の内容の概要

##### 当社の企業価値の源泉

当社は、設立以来、独自の熱技術を有する工業炉の総合メーカーとして、独創的な技術・商品を市場に送り出すことにより、産業界の発展に貢献してまいりました。当社の企業価値は、高度な研究開発力、熱技術を活かした高品質な商品開発力、エンジニアリングと製造技術が一体となった事業運営体制、さらには顧客ニーズに機敏な営業推進体制にあると考えており、これらを支える人材や取引先との関係が、当社の企業価値を生み出す基盤となっております。そのため、当社では、長期的な視野に立った人材の育成や技術の承継に注力するとともに、あらゆる業務プロセスの生産性を高めることで、顧客との信頼関係を構築してまいりました。

このような、長年にわたり築いてきた人的・技術的資源と、顧客・取引先・従業員及び地域社会等の様々なステークホルダーとの良好な信頼関係こそが、当社の企業価値の源泉であります。

##### 基本方針

当社としては、当社の財務及び事業の方針を決定する者は、当社の財務及び事業の内容や、上記の当社の企業価値の源泉を十分に理解し、企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益を継続的かつ持続的に確保し、より向上させていくことを可能とする者であると考えています。

もっとも、当社としても、会社を支配する者の在り方は、最終的には、株主の皆様全体の意思に基づき決定されるべきものであると考えています。

しかしながら、昨今のわが国の資本市場における株式の大規模買付行為の中には、株主の皆様を買付の目的や内容、買付後の経営戦略などについての十分な情報開示がなされず、又は十分な検討時間が与えられないもの等、株主の皆様の共同の利益を毀損するものもあります。

このような大規模買付行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として適当ではないと考えております。

#### (2) 基本方針を実現するための当社における取組みの概要

当社は、上記（1）の当社の企業価値の源泉を活かして、企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益をより一層向上させるべく、「経営ビジョン2015」を策定しており、リーマン・ショック後の市場の劇的な変化を的確に捉え、事業構造の変革を加速するため、市場に適應するコストの追求と魅力ある技術・商品づくりを推し進めるとともに、新規成長分野を開拓することを最優先事項としております。なお、当社が最優先事項として取り組んでいる具体的な内容は、概略、次のとおりです。

ア 新規成長分野である太陽光発電、二次電池、有機ELや、省エネルギー・環境対策（CO<sub>2</sub>削減）関連での営業力を強化するとともに、アジアを主体とした成長市場の需要を取り込み、業績の進展を図ってまいります。

イ 徹底した採算管理を実施し、国内外において幅広く購買先を求め「調達力」を強化することにより、競争力のあるコストを実現してまいります。

ウ 商品開発のスピードアップを図り、新商品のタイムリーな市場投入を目指してまいります。

当社は、以上の取り組みを引き続き推進・実行していくことにより、安定的な成長を達成して企業価値を高めてまいります。

(3) 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み（本プラン）の概要

本プラン導入の目的

上記（１）の「基本方針の内容」において述べたとおり、当社株主の皆様が、大規模買付提案を受け入れるかどうかを判断なさるためには、大規模買付行為が行われる際に大規模買付者から当該大規模買付行為の内容、目的、将来にわたる経営戦略等、株主の皆様が大規模買付行為を受け入れる可否かを判断するのに必要な情報及び判断のための十分な時間が提供される必要があります。

当社は、企業価値及び株主の皆様の共同の利益の確保のため、基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みとして、大規模買付行為及びその提案がなされた場合におけるルールを以下のとおり策定いたしました。

本プランの概要

（詳細につきましては、弊社ウェブサイト（<http://www.chugai.co.jp>）をご覧ください。）

ア 本プランの対象となる大規模買付行為

特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株式等(注)の買付等の行為、又は結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株式等の買付等の行為を対象とします。

(注)「株式等」とは、金融商品取引法第27条の23第1項に規定する株券等を意味します。

イ 独立委員会の設置

当社は、当社取締役会が恣意的な判断を行うことを防止するため、当社社外監査役及び社外有識者の中から選任された委員により構成される独立委員会を設置いたしました。

独立委員会は、大規模買付者から提供される情報が、本プランに照らして十分か否かの判断、大規模買付者が本プランを遵守したか否かの判断及び対抗措置の発動の可否について、当社取締役会に助言・勧告を行い、当社取締役会は、独立委員会の助言・勧告を最大限尊重するものとします。

ウ 大規模買付者からの情報の提供

(ア)大規模買付者は、大規模買付行為に先立ち、本プランに基づいた手続により、当該買付行為を行う旨の誓約文言等が記載された「意向表明書」を、当社に対して提出するものとします。

(イ)当社取締役会は、上記「意向表明書」を受領した日から10営業日以内に、当該買付行為の内容を検討するのに必要な情報のリストを、当該大規模買付者に交付します。

(ウ)当該大規模買付者は、当社取締役会が定める回答期限までに、当該必要情報を、当社の定める書式で提出するものとします。

エ 当社取締役会による評価・検討

当社取締役会は、大規模買付者が必要かつ十分な情報の提供を行ったと判断できる場合には、その旨開示し、その日から最大60日（対価を現金（円貨）のみとする公開買付の場合）又は90日（その他の方法による大規模買付行為の場合）が経過するまでの期間（以下「取締役会評価期間」といいます。）、大規模買付者の提案に関する評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案及び対抗措置の発動の可否の判断を行います。



大規模買付者は、取締役会評価期間が経過するまで、大規模買付行為を開始することができないものとし、

オ 独立委員会による助言・勧告

当社取締役会は、大規模買付者から意向表明書の提出がなされた後、遅滞なく、独立委員会に対して、大規模買付行為の提案があった事実を通知するとともに、大規模買付者から必要情報の提供を受けた場合にも、当該必要情報を独立委員会に提出します。

独立委員会は、取締役会評価期間中、当該必要情報を分析評価し、大規模買付行為に対し、一定の対抗措置の発動をすべきか否かにつき、当社取締役会に対して助言・勧告を行うものとし、当社取締役会は、独立委員会の助言・勧告を最大限尊重します。

カ 大規模買付行為がなされた場合の対応

(ア)大規模買付者が本プランを遵守しない場合

当社取締役会は、必要性及び相当性を勘案し、独立委員会の助言・勧告を受けた上で、当該買付行為への対抗措置をとることがあります。対抗措置として、現時点では、新株予約権の株主無償割当てを予定しています（ただし、当該方法に限られるものではありません。）。

(イ)大規模買付者が本プランを遵守した場合

当社取締役会は、当該買付行為に対する反対意見の表明や代替案の提示等により、株主の皆様当該買付行為に応じないように説得するに留め、原則として対抗措置は執りません。

ただし、当該大規模買付行為が、当社の企業価値及び株主の皆様の共同の利益を著しく損なうと、当社取締役会が判断した場合は、例外的に独立委員会による助言・勧告を受けた上で、一定の対抗措置を執ることがあります。

(ウ)当社取締役会は、対抗措置発動の決定を行った場合、当該決議の内容その他当社取締役会が適切と判断する事項について、速やかに情報を開示します。

(4) 基本方針を実現するための当社における取組みに関する当社取締役会の判断及びその判断に係る理由

当社の「経営ビジョン2015」は、基本方針に基づいて作成され、当該経営計画を実行することにより、当社の企業価値が向上いたします。したがって、基本方針を実現するための当社における取組みは、基本方針に沿うものであり、株主の皆様の共同の利益を高めるものと考えます。

(5) 本プランに関する当該取締役会の判断及びその判断に係る理由

当社取締役会は、次の理由から、本プランが、基本方針に沿うものであり、株主の皆様の共同の利益を損なうものでなく、当社役員の地位を維持することを目的とするものではないと判断しています。

買収防衛策に関する指針の要件を完全に充足していること

本プランは、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」に定める三原則（ ．企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、 ．事前開示・株主意思の原則、 ．必要性・相当性の原則）を完全に充足しています。また、本プランは、企業価値研究会が平成20年6月30日に発表した「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」を踏まえて設計されているものです。

株主共同の利益の確保・向上の目的に資すること

本プランは、株主の皆様が、大規模買付行為を受け入れるか否かを適切に判断するために必要な情報や時間を確保し、かつ当社の企業価値及び株主の皆様の共同の利益に対する明白な侵害を防止するため、大規模買付者が従うべき手続、並びに当社が発動しうる対抗措置の内容及び発動条件をあらかじめ定めるものであり、当社の企業価値ひいては株主の皆様の共同の利益の確保・向上に資するものです。

株主意思を反映するものであること

平成22年6月24日開催の当社第68期定時株主総会において、本プランを採用することについて、株主の皆様にご承認していただいております。また、本プランの有効期間は、平成24年6月開催予定の当社第70期定時株主総会終結のときまでであり、再度当該総会において株主の皆様にご承認の可否についてご決議いただく予定としております。

したがって、本プランの導入、継続及び廃止には、株主の皆様のご意思が反映される仕組みとなっております。

独立性の高い社外者の判断の尊重

当社は、本プランの採用に当たり、上記（3）イで述べたとおり、独立委員会を設置し、当社取締役会が、恣意的に本プランの運用を行うことがないよう、厳しく監視するとともに、独立委員会の判断の概要について株主の皆様にご情報開示することとされており、当社の企業価値・株主の皆様の共同の利益に適うように本プランの運用が行われる仕組みが確保されています。

取締役会の判断の客観性・合理性の確保

本プランでは、上記（3）エで述べたとおり、対抗措置の発動に関して、合理的かつ詳細な客観的要件及び手続が予め設定されており、当社取締役会による恣意的な対抗措置の発動を防止するための仕組みを確保しています。

デッドハンド型買収防衛策でないこと

本プランは、当社の株主総会で選任された取締役で構成される取締役会において、過半数の決議により廃止することができます。したがって、デッドハンド型買収防衛策（取締役の過半数を交代させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。

なお、当社においては、取締役の任期を2年としておりますが、期差選任制ではありません。また、取締役解任決議要件につきましても、特別決議を要件とするなど決議要件の加重を行っておりません。

#### (4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は355百万円であります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	250,000,000
計	250,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	89,230,015	89,230,015	(株)東京証券取引所 市場第一部 (株)大阪証券取引所 市場第一部	単元株式数は1,000株であります。
計	89,230,015	89,230,015		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年9月30日		89,230		6,176		1,544

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目13-1	4,641	5.20
株式会社りそな銀行	大阪市中央区備後町2丁目2-1	4,194	4.70
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区内幸町1丁目1-5	3,785	4.24
三菱商事株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目3-1	3,545	3.97
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	3,193	3.57
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6-6	2,136	2.39
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	1,948	2.18
株式会社銭高組	大阪市西区西本町2丁目2-11	1,750	1.96
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505041 (常任代理人 香港上海銀行東京 支店)	12 NICHOLAS LANE LONDON EC4N 7BN U.K. (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	1,600	1.79
中外炉工業関連企業持株会	大阪市中央区平野町3丁目6-1	1,558	1.74
計		28,352	31.77

(注) 上記のほか当社所有の自己株式5,295千株(5.93%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,295,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 82,985,000	82,985	
単元未満株式	普通株式 950,015		
発行済株式総数	89,230,015		
総株主の議決権		82,985	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」の「株式数」欄には、証券保管振替機構名義の株式が3,000株(議決権3個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式807株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 中外炉工業株式会社	大阪市中央区平野町3丁目 6 - 1	5,295,000		5,295,000	5.93
計		5,295,000		5,295,000	5.93

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、京都監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	17,643	14,905
受取手形及び売掛金	14,043	13,069
たな卸資産	1,543	2,055
その他	384	547
貸倒引当金	9	8
流動資産合計	33,604	30,569
固定資産		
有形固定資産	5,861	5,710
無形固定資産	17	14
投資その他の資産		
投資有価証券	4,663	3,676
その他	436	415
貸倒引当金	38	38
投資その他の資産合計	5,061	4,054
固定資産合計	10,940	9,779
資産合計	44,545	40,348
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,303	9,738
短期借入金	3,308	3,314
引当金	491	666
その他	4,745	3,190
流動負債合計	19,849	16,909
固定負債		
長期借入金	741	924
退職給付引当金	112	195
その他	1,210	848
固定負債合計	2,064	1,968
負債合計	21,913	18,878

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	6,176	6,176
資本剰余金	3,849	3,849
利益剰余金	12,551	12,275
自己株式	1,304	1,560
<b>株主資本合計</b>	<b>21,273</b>	<b>20,741</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	1,333	702
繰延ヘッジ損益	-	0
為替換算調整勘定	36	33
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>1,296</b>	<b>669</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>62</b>	<b>60</b>
<b>純資産合計</b>	<b>22,631</b>	<b>21,470</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>44,545</b>	<b>40,348</b>



(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	17,881	15,795
売上原価	14,022	13,039
売上総利益	3,858	2,756
販売費及び一般管理費	1 2,141	1 2,095
営業利益	1,717	660
営業外収益		
受取配当金	54	73
その他	56	39
営業外収益合計	111	112
営業外費用		
支払利息	25	23
為替差損	28	97
その他	6	8
営業外費用合計	59	129
経常利益	1,769	644
特別利益		
投資有価証券割当益	62	-
事業譲渡益	22	-
投資有価証券売却益	4	-
特別利益合計	88	-
特別損失		
投資有価証券評価損	12	-
特別損失合計	12	-
税金等調整前四半期純利益	1,845	644
法人税等	738	229
少数株主損益調整前四半期純利益	1,107	414
少数株主利益	2	10
四半期純利益	1,104	403

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,107	414
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	815	630
繰延ヘッジ損益	-	0
為替換算調整勘定	13	2
持分法適用会社に対する持分相当額	3	1
その他の包括利益合計	832	626
四半期包括利益	274	212
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	274	223
少数株主に係る四半期包括利益	0	11

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,845	644
減価償却費	256	247
投資有価証券評価損益(は益)	12	-
投資有価証券割当益	62	-
事業譲渡損益(は益)	22	-
投資有価証券売却損益(は益)	4	-
持分法による投資損益(は益)	1	2
貸倒引当金の増減額(は減少)	5	0
退職給付引当金の増減額(は減少)	93	83
受取利息及び受取配当金	58	81
支払利息	25	23
売上債権の増減額(は増加)	2,129	976
たな卸資産の増減額(は増加)	337	504
仕入債務の増減額(は減少)	561	1,572
その他	1,542	286
小計	5,975	472
利息及び配当金の受取額	58	81
利息の支払額	25	24
法人税等の支払額	341	1,396
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,667	1,811
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	121	183
無形固定資産の取得による支出	1	-
投資有価証券の取得による支出	1	1
投資有価証券の売却による収入	9	-
子会社株式の取得による支出	14	-
事業譲渡による収入	22	-
その他	0	13
投資活動によるキャッシュ・フロー	106	171
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	310	400
長期借入金の返済による支出	184	211
配当金の支払額	704	679
少数株主への配当金の支払額	-	13
自己株式の取得による支出	280	255
財務活動によるキャッシュ・フロー	858	760
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	5
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	4,691	2,738
現金及び現金同等物の期首残高	8,253	17,643
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,945	14,905

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年9月30日)
1. 税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

【追加情報】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年9月30日)
	当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)	
1 たな卸資産の内訳		1 たな卸資産の内訳	
製品	60百万円	製品	72百万円
原材料	118百万円	原材料	93百万円
仕掛品	103百万円	仕掛品	122百万円
未成工事支出金	1,261百万円	未成工事支出金	1,767百万円

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日至平成22年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年9月30日)	
1 販売費及び一般管理費の主なもの		1 販売費及び一般管理費の主なもの	
給料諸手当	937百万円	給料諸手当	975百万円
賞与引当金繰入額	151百万円	賞与引当金繰入額	146百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日至平成22年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日至平成23年9月30日)	
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係		1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	
現金及び預金	12,945百万円	現金及び預金	14,905百万円
現金及び現金同等物	12,945百万円	現金及び現金同等物	14,905百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1. 配当金支払額

平成22年6月24日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ)配当金の総額	704百万円
(ロ)1株当たり配当額	8.00円
(ハ)基準日	平成22年3月31日
(ニ)効力発生日	平成22年6月25日
(ホ)配当の原資	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

平成23年6月24日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ)配当金の総額	679百万円
(ロ)1株当たり配当額	8.00円
(ハ)基準日	平成23年3月31日
(ニ)効力発生日	平成23年6月27日
(ホ)配当の原資	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	エネルギー 分野	情報・通信 分野	環境保全 分野	計				
売上高	11,479	5,341	913	17,734	921	18,655	774	17,881
セグメント利益 又は損失( )	1,354	580	228	1,706	13	1,693	24	1,717

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社における、工業炉、産業用空調設備、人材派遣等の事業を含んでおります。

2 セグメント間取引消去等によるものであります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	エネルギー 分野	情報・通信 分野	環境保全 分野	計				
売上高	9,452	4,535	1,371	15,359	1,447	16,806	1,011	15,795
セグメント利益	230	230	50	511	77	588	72	660

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社における、工業炉、人材派遣等の事業を含んでおります。

2 セグメント間取引消去等によるものであります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、環境保全分野の事業再編の一環として、平成23年4月1日より蓄熱式排ガス処理装置の製造販売事業を当社から連結子会社中外エンジニアリング㈱に移管いたしました。これに伴い、第1四半期連結会計期間より同社事業セグメントを「その他」から「環境保全分野」へ変更しております。

なお、報告セグメント変更後の前第2四半期連結累計期間に係る報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報は、「前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)」に記載しております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

著しい変動がないため記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	12円58銭	4円77銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1,104	403
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,104	403
普通株式の期中平均株式数(千株)	87,812	84,649

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月14日

中外炉工業株式会社  
取締役会 御中

### 京 都 監 査 法 人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 山 本 眞 吾 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 鍵 圭 一 郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている中外炉工業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、中外炉工業株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以 上

- (注) 1．上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。  
2．四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。